

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0196400147), 法人名 (株式会社 陽光), 事業所名 (グループホーム 陽だまりの家 1階), 所在地 (苫前郡羽幌町栄町94番地8), 自己評価作成日 (令和3年1月20日), 評価結果市町村受理日 (令和3年3月12日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan_i=true&JigyosyoCd=0196400147-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年2月12日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・楽しく・やさしく」の理念のもと、入居者様が施設での生活を楽しみ、その方らしく過ごせるよう支援していく事を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市内中心部から車で数分の道立羽幌病院や特別養護老人ホームが立ち並ぶ地区にあり、幹線道路も近く、大型スーパーや各種店舗も至近の距離にあるが、全体的には閑静な住宅街に接し、海も身近に望める落ち着いた環境下に立地している。また近隣の道立病院と隣接する特養とは、利用者の転移先や災害時の避難所等として福祉的な連携がなされており、相互の協力体制が維持されている。当事業所は平成29年に羽幌町の要請に応じて開設され、母体法人は小平町でグループホームと有料老人ホームを運営し、経験と実績により羽幌町から依頼された経緯がある。建物は2階建てで廊下型の造作となっており、各階にユニットが入り計18人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優秀な点は、利用者家族への工夫されたお便りの実施を挙げたい。事業所では介護がどの様に実施され効果が高まっているのか、利用者の日々の生活はどのように過ごしているのかを伝える義務があるが、当事業所では利用者の日々の個人別介護記録を全て月毎にまとめて家族宅に送っている。簡易な部分もあるが実際の介護記録であり、生活の様相が克明に表れ、好評的に定着している。職員の正規雇用も挙げたい。安定した雇用が安心の介護を実践するとし、介護という対面援助・支援の大切さを理解した正職員雇用を賛辞したい。また幼稚園との相互交流や高校生の実習受け入れ、ボランティアとの協力体制等々、また静かに地域交流も進行しており、「グループホーム陽だまりの家」の今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った支援を行いたい、実践出来ない部分もある。理念を意識して取り組めるようには努力している。	「ゆっくり・楽しく・やさしく」の事業所理念を事務室や休憩室等に掲示し、利用者や家族、関係者に明示している。掲示することで職員は常に意識し、実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年ボランティアの方や幼稚園児が来られていたが、今年はコロナ禍の為交流することが出来ませんでした。施設見学についても問い合わせはありましたが、行っていません。	開設して4年が経過し、地域的な付き合いも進行している。実習の受け入れやボランティアの来所等々、より積極的な取り組みを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちに認知症の理解などの方法を発信することは出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス発生の為集まることは出来ず、書面での報告をしています。	運営推進会議は町の包括や家族会、道立病院の地域連携担当、協力病院等の参加で定期開催している。特に病院関係者との調整も会議の席上で行われ、オープンな意見の交換が好評を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば連絡、相談をして協力を得ています。	小さな町であり、また開設後間もない事もあり、行政の窓口とは顔見知りの信頼できる関係となっている。また意見交換も頻繁に行われ、都度サービス向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の研修を行っていく事で、職員に周知し拘束が無いように努めている。防犯上1階玄関は20時から6時まで施錠しています。日中は施錠していません。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、現状のケアの確認を行っている。また年に2回以上拘束や虐待防止の研修も実施し、適切なケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した後は、内部研修で報告し、身体拘束はもちろん言動にも注意を払い支援していくよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度があるのは聞いているが、理解はできていない。身体拘束の研修の中でビデオを見ているが、きちんと理解するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問に思った事は詳しく説明をして納得をして頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話が来た時には日々の様子をお話して要望などを聞き、職員間で話し合い信頼をして頂ける様に努めています。玄関には意見箱の設置をしています。	利用者の生活を載せた「陽だまり通信」をユニットごとに発行している他に、個別の介護記録も月にまとめて家族宅に発送し、事業所での生活の理解促進に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議の中で意見交換をしています。	ユニット会議は月に一回開催し、意見や提案が出され、毎日の申し送りでも重要な論議の場として活用されている。職員は基本として常勤職であり、社長を始めとした幹部との話し合いや親睦会も多く設けられ、活発な意見の交換は維持されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場づくりをしたいが、人員確保が難しく出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の関係で全体会議の自粛しており、内部研修も減らしています。外部研修に参加できた時には会議の中で報告をしています。新入職員には内部で新人研修を行ったり、初任者研修を受講して頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町で行う研修に参加し、他施設との感染予防に関する意見交換を行う事は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	面接時の情報と入居後に本人の要望などを確認し、安心できるような支援ができる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しても要望などがあれば聞き、相談しながら信頼して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況に応じた支援方法を話し合い、必要とされる支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを職員と一緒にいる事で楽しみや役割を感じて頂けるように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを出したり、来訪時には普段の様子を伝えていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は面会も制限される中、玄関での窓越しの面会やオンラインを利用した面会など工夫をしています。	町の規模が小さく、馴染みの景色や場所は限られているが、希望の多い海や港、通い慣れたお店等々は通院時に廻って確認したり、また外出先までも送迎し、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性が悪くならないように職員が入り支援しています。トラブルが起きた時も話を聞いたり、席替えなどの対応もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は他施設などへ入られているので、相談や支援は行っていません。移られた後の生活状況など聞ける機会も時々あります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を把握し支援に繋げていくよう努力はしているが、すぐに対応できない場合もあり別の方法を考え検討しています。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、顔や全体の表現等を頼りに本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中でそれぞれの生活歴の情報を聞き取るよう努力はしている。それぞれがここでの生活ペースが出来ているように見受けられています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のユニット会議、毎日の申し送りや記録のチェックを行い状態の把握に努め情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議でケアのあり方、支援方法を話し合い、状態に応じた計画を作成しています。	一人ひとりのニーズを分析し、モニタリング、アセスメント、カンファレンスを繰り返し、個別の介護計画を作成している。病変等には都度対応し現実に即した計画になるよう努めている。また介護日誌では目標達成への進捗度が測れないため、別途検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子を記録に入力している他、都度の申し送りを行情報の共有ができる様に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット会議でその時に必要とされるサービスの検討を行い支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナ禍の為、移動販売やボランティアの方の来訪は出来なくなりました。町内の状態が落ち着いた時にはパン屋さんが来てくださっています。今は地域の方との交流も出来ていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度往診や訪問診療を受けている。その際日常の様子を伝え対応して頂いている。コロナ禍の為処方箋のみの対応になった月もありました。急変時には病院と連携を取り受診の支援を行っています。	往診や常勤看護師との連携、通院への支援や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はリーダー・管理者へ報告。受診が必要な場合には病院と連携をして受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と連携を取り情報を頂き、退院時にはカンファレンスを行い、退院後も安心して生活が送れるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアは行っていないので、重症化した場合は家族、病院と話し合い療養型へ移れるように支援していきます。	医療的な限界から看取り介護としては実施せずに、出来る範囲で利用者の希望に沿えるよう努めている。療養型の病院や特養と連携を強め、お互いの特性を活かした介護となるように、終末期の介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは目につく所に貼って対応できるようにしているが、応急処置などの研修は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行う事になっているが、今年は1回しか行っていない。夜間想定訓練も行っていない。近くの町内会への依頼は	災害時には隣接する特養や徒歩数分の道立病院と連携できる協力関係を結んでいる。また消防署員が運営推進会議の委員であり、日頃からのアドバイスを職員で共有している。	冬季の災害を想定し、電気に頼らない暖房装置の確保は、高齢者の生活を預かる側として必然であり、特に海に面した当地の寒さは想像を絶すると思われ、早急な用意により安心できる防災体制の確立に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋は1人部屋、入浴は個浴、トイレにはカーテンを掛けプライバシーを守っています。入居者様への声掛けにも注意を払っています。	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような言葉を掛ける様に努め、本人の希望することを言いやすい雰囲気づくりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になっている職員もいるが、ゆっくり過ごして頂けるように支援していく事を会議の中で話し合い進めていくところです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などには鏡に前で髪を整えたり、化粧水を付けたりすることの支援を行っています。洋服を選ぶ時には本人に確認をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりに合わせた食事形態で提供していません。時間に関しても体調に合わせて時間調整をしています。調理の下ごしらえや調理、盛り付けや茶碗洗い等職員と一緒にやる事が出来ている。	食事について、利用者一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や盛り付け、食器や食卓を拭いたりもしている。また、摂取カロリーや栄養バランスも考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の確認を行い、少ない方への工夫を行っています。提供時間が決まっているが、夏の場合は少なめの量をこまめに提供し、脱水などの予防を行いました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。本人が出来ない所に関しては支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の多い方には訴え時はもちろん、排泄パターンを調べ、別に記録用紙を準備して、声掛けを行い誘導しています。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者一人ひとりに合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて間隔などチェックをして下剤の調整をしています。水分摂取や運動の声掛けもしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定していますが、その日の体調に合わせて変更などの対応をしています。	入浴は週に2回程度を想定しているが、お湯は毎日入れ替えて、いつでも、だれでも入れるお風呂として、日々用意している。毎日2~3人の入浴で、時間をかけてゆっくりとした入浴支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に夜間は安心して休めるような声掛けを行い、日中も身体を休める時間を作り休息がとれるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はいつでも見ることができるになっています。服薬時には名前・日付・いつの物かを声に出して確認し、誤薬ないようにマニュアルも見える所に貼り周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが出来ることを行って頂き、役割を持つことで生き生きとした生活が送れるように支援していきます。気分転換も兼ねドライブに出掛けるなど支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏には施設前での日光浴やドライブに出掛けたりしました。家族からの要望で葬儀の為の外出支援も行いました。今年はコロナ禍でお祭りが中止になり見学ができませんでした。	事業所には外出用の車両が2台確保され、自由に使えるため、天候や体調と相談しながらドライブ等を楽しんでいる。また冠婚葬祭への出席要望もあり、家族と協力し支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をしている方は少ないが、パン屋さんが来た時には自分で選び購入しています。お金を持っている方は自分で支払いもしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われた時や掛かってきたときには取次ぎをしてお話をされています。お手紙が届いた時には本人に渡し、代読をする時もあります。返事が書けない方には職員が代筆し写真を添えて送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節ごとの壁面飾りを飾り季節を感じて頂いています。夏に出掛けた時の写真も貼り見て頂いています。室温にも気を付け冬には加湿の調整も行っています。	ホーム用に設計された新築の建物で、談話室兼食堂は広く明るい間取りとなっている。トイレは一カ所に集約され、プライバシーに配慮された構造で、また華美な装飾は抑えられ、利用者が作った作品が貼られる等、静かに生活ができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは自由に過ごせるようにしています。馴染みの関係も出来ており、お話をしたりテレビを観たりして過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具や仏壇を持って来られている方や家族の写真を飾っている方など過ごしやすい環境にしています。	居室には、自宅にあった家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気が感じられ、家族の写真も貼られ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には名前を貼り、トイレや浴室には案内表示を付けわかりやすくしている。動線も広く確保し安全に移動ができる様にしています。		